

黄昏に小さく翔んでみる

ふと風を感じた。  
逢魔が刻とはいえ、ドラマチックな色もない  
そんな石畳の道の外れで。

そこは 静かな街に入ってゆくところ  
背後には野の草が柔らかくさざめき  
小さな光をゆらめかせる水の流りが  
街を回避して道の傍から 外れてゆく

明るい空高く舞うには どこか心が重いけれど  
この咎めない優しい空気に  
心が微かに弾んだ。

小さく翔んでみる  
口をつぐんでいてくれる この黄昏に

静かで淡いグレーとベージュの中から  
小さなリズムが浮かぶ  
リズムカルにしかし全体的に静かに

♩ = 80

pp

ppp

16

pp

28

p

ppp

pp

41

ppp